

## スタチン療法による効果に男女差なし

女性に対するスタチン療法は、とくに主要血管イベントの一次予防において、男性と同等の効果があるかについては見解が分かれている。そこで本研究では、スタチン療法の男女間での効果の違いについてメタ解析を行った。

スタチン療法と対照群とを比較した無作為化試験 22 件（被験者数 134,537 例）とスタチン療法の程度を比較した無作為化試験 5 件（被験者数 39,612 例）が解析の対象となった。被験者のうち、女性は 27%であった。LDL コレステロール値が 1.0mmol/L 低下するごとの主要血管イベント、脳卒中、冠動脈血行再建術それぞれの発症率および死亡率について男女差を比較した。その結果、LDL コレステロール値 1.0mmol/L 低下するごとの主要血管イベント発症率の低下は男女間で有意差はみられなかった（率比：女性 0.84、男性 0.78、補正後  $p=0.33$ ）。絶対心臓血管リスクの 5 年予測値 10%未満の発症率についても男女間で有意差はみられなかった（補正後  $p=0.11$ ）。同様に、主要冠動脈イベント、冠動脈血行再建術、脳卒中それぞれの発症率の低下についても有意な性差は認められなかった。がんの発症や、心臓血管病によらない死亡に対する有害な影響は男女ともにみられなかった。

したがって、リスクが同程度であれば、スタチン療法による主要血管イベントの予防効果は同等であることが示された。

出典：Lancet. Published online Jan 8, 2015; pii: S0140-6736(14)61368-4